



國際大會發表獎勵事業 (第33回台灣小兒齒科學會) 報告書



目次

公益社団法人日本小児歯科学会理事長	新谷 誠康	P2
公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長	仲野 和彦	P2
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学	池田 舜也	P3
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	奥田 真琴	P3
新潟大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野	草塩 奈央	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	高木 美里	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	東條 文和	P5
福岡歯科大学小児歯科学講座	中野 佑美	P5
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	夏江 華瑠奈	P6
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野	薬師寺 麻里奈	P6

第33回台湾小児歯科学会大会（TAPD）大会における国際大会発表奨励事業

公益社団法人日本小児歯科学会理事長
新谷 誠康



本事業は第33回TAPD大会（2024年6月29～30日、台北）において、筆頭発表者として発表を行う大学院生もしくは臨床研修開始後5年目までの会員に対して大会参加に対する諸費用を支援し、国際的な場での積極的な活動を促進するために行われました。これは昨年（2023年）の第61回日本小児歯科学会長崎大会期間中に、TAPDと締結しました学術協定に基づいた交流の一環でもあります。本事業は日本小児歯科学会国際渉外委員会経費とASUNARO基金（佐野正之理事にご寄付いただき創設）をもとに運営されています。佐野理事に心より感謝を申し上げます。

本報告書に掲載されているのは、支援を受けて演題発表を行った若手小児歯科医の報告です。「発表内容の説明」には症例報告、臨床研究及び基礎研究の洗練された発表内容が説明されており、「大会参加に関する感想」からは発表や学会イベントに真剣に取り組み、国際交流を楽しまれたことが窺い知れる内容となっています。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によって国際的な学会活動が制限されていた数年間を取り戻し、さらに以前にも増して活発になっていることをひしひしと感じ、大変嬉しく思っています。

第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会は、今回本事業を推し進めていただいた仲野和彦国際渉外委員長を大会長とし、2027年に大阪の地で開催されています。本支援事業を受けて発表された日本の若手小児歯科医が3年後にさらなる高みに立ってご活躍され、第31回IAPD大会の成功へとつながっていくことを願って止みません。そのためにも、支援事業は今後も継続して行っていきたいと考えております。



若手会員の皆さんの活躍を目の当たりにして

公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長
仲野 和彦



「国際大会発表奨励事業2024」の1つとして、2024年6月29～30日に台北で開催の第33回台湾小児歯科学会大会に参加する若手会員の支援を行うことができました。本事業は、日本小児歯科学会および同佐野正之理事の個人的なご寄付によって創設されたASUNARO基金によって実現したものであり、この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

本報告書を作成するにあたりまして、本事業において実際に支援を受けて大会で発表された8名の若手会員の先生方に、ご自身の発表内容の説明と、フリータイムに台北で経験されたことの記載をお願いしました。報告書をお読みいただきますと、どの発表も日本小児歯科学会を代表して行っていただくにふさわしいものであるとともに、各先生方が英語を使って一生懸命にプレゼンテーションされている姿を頼もしく感じていただけることかと思えます。

私たちが学生時代に英語を勉強した環境と比較して、最近は教育方法が充実してきたからなのか、高いコミュニケーションスキルを有している若手会員の先生方が多いことを実感しています。私たちは、さらにこのような場を設けていくことで、日本小児歯科学会のプレゼンスの向上につながるとともに、私たちが誇る優れた研究成果を世界の小児歯科関係者に理解してもらえることにもつながっていくことと期待しております。

今回、台湾で特に印象的だったことは、多くの若手会員の先生方が、積極的に現地の先生方と交流を持とうとしていた姿です。演題のプレゼンテーションの場においてや懇親会の場などで、そのような光景を数多く見受けました。今後も、今回の大会で構築できた友人関係を継続してもらえることを期待しています。このような若手会員への国際大会発表奨励事業は続いていくと思いますので、勇気を持って積極的に活用していただければと思います。

初めての学会発表を振り返って

発表内容の説明

児童虐待は近年深刻な社会問題となっており、件数も増加の一途をたどっています。当科では2009年度より広島県歯科医師会や行政とともに広島県内の一時保護施設において歯科検診や歯科保健指導といった支援活動を行ってきました。

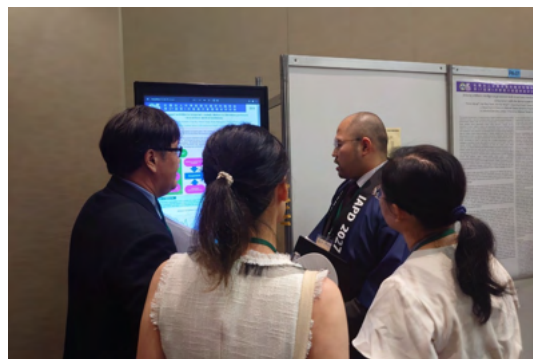
今回、3次医療機関としての関りを含む活動全般及びコロナ禍における児童虐待の状況について報告しました。

大会参加に関する感想

国際学会への参加や学会でのポスター発表は今回が初めての経験でした。初めは緊張しましたが、無事に発表を終えたことは自信につながりました。

久しぶりに外国を訪れて、街並みや気候の違いはもちろんですが、学会の雰囲気も日本とは全く異なることにカルチャーショックを受け、見聞が広がったと感じました。

学会発表を通じ、台湾の先生方だけでなく日本の他大学の先生方とも交流し、大変多くのことを学ばせていただきました。今後の臨床や研究にも励み、精進していきたいと思えます。



ポスター発表の様子



学会会場の真横の台北101にて

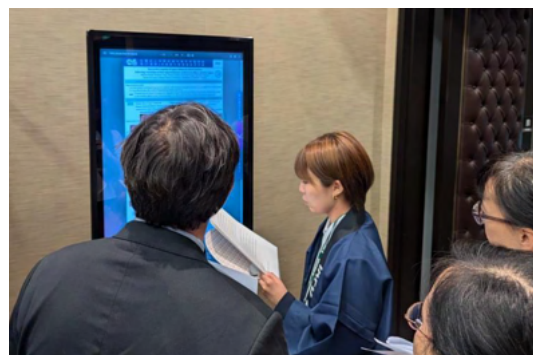
台湾の熱気に包まれて

発表内容の説明

今回、上顎前歯部に存在する過剰歯により萌出が阻害された上顎両側中切歯への治療について症例発表を行いました。本症例では、9歳1か月の男児のエックス線画像において、上顎両側中切歯が埋伏しており、上顎両側中切歯の歯冠側に4本の過剰歯を認めました。まず4本の過剰歯を抜去し、上顎両側中切歯の萌出の観察を行いました。3か月経過時点で上顎両側中切歯が未萌出であったことから、開窓術を行ったところ、9歳10か月時に萌出が認められました。今後も、歯列咬合の経過観察を継続していく方針です。今回の症例を通して、過剰歯の早期発見およびその後の適切な管理が重要であると考えられました。

大会参加に関する感想

この度は国際学会発表奨励事業により、TAPDに参加する機会をいただきありがとうございました。英語でのポスター発表や質疑応答はとても緊張しましたが、非常に貴重な経験となりました。また、懇親会では本格的な台湾料理を味わうことができただけでなく、台湾の伝統芸を見ることができ、その熱量に圧倒されました。今回の学会参加での経験を活かし、今後は臨床や日々の研究に励むことに加え、英語力の向上にも努めていきたいと考えています。



ポスター発表の様子



台湾出身の同世代の先生との交流

発表内容の説明

今回のポスターでは、咬合力および咬合接触面積の左右対称性を評価するために非対称性指数(Asymmetry Index : AI)を算出し、学童期の非対称咬合が口腔および身体機能に影響を与えるかについて発表を行いました。8～12歳の混合歯列期の学童374名を対象とした結果、AIと口腔機能には負の相関が認められ、AIと身体機能には相関が認められませんでした。混合歯列期の非対称咬合は一時的に口腔機能を低下させる可能性があることが示唆されました。

大会参加に関する感想

初めての国際学会であり、1週間前くらいから大変緊張していましたが、とても有意義な経験ができました。慣れない英語での発表や質疑応答は、これからの課題ですが、今後も国際学会で発表させていただけるよう研究や臨床だけではなく、語学力も磨いていきたいと思えます。

Gala Dinnerにも参加させていただき、台湾の文化や食にも触れることができ、楽しかったです。台湾では美味しいものをたくさん食べたり飲んだりすることができ、大満足でした。

この度は日本小児歯科学会のご支援のもと、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



ポスターの前で



Gala Dinner にて

あたたかい国 台湾

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
高木 美里

発表内容の説明

両側性に下顎第一乳臼歯の下方に過剰歯が存在することを主訴に来院した8歳2か月の男児の症例について発表を行いました。本症例は、初診時から経過観察を行っていましたが、10歳9か月時にパノラマエックス線とコーンビームCT (CBCT) を撮影したところ、下顎両側第一小臼歯の萌出が阻害されていたため、全身麻酔下にて下顎両側第一乳臼歯および過剰歯の抜歯を行いました。今後は、下顎両側第一小臼歯の萌出を観察していく予定です。

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、TAPDに参加する機会をいただきありがとうございました。台湾で食べた本場の小籠包はとても美味しく、お箸が止まりませんでした。また、中正紀念堂を訪れ衛兵交代式を見学し、異国の文化に触れることができました。学会を通して、台湾の先生方は私たちに優しく接してくださり、あたたかみを感じることができました。

海外での発表は、伝えたい内容を言葉にすることが難しく未だに慣れませんが、今回の経験を糧に今後の学会発表でも頑張りたいと思えます。



台湾の先生方の前での発表



美味しかった小籠包

私の大好きな国、台湾

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
東條 文和

発表内容の説明

母乳に含まれる抗菌性のタンパク質であるラクトフェリンが、う蝕の主要な病原性細菌であるミュータンス菌に及ぼす抗菌効果を評価し、ポスター発表を行いました。

本研究では、ミュータンス菌に対して母乳中と同等の濃度である 3mg/ml のラクトフェリンを作用させて、24 時間培養しました。その結果、12 時間経過時の電子顕微鏡像においてミュータンス菌の菌体表層構造が破壊されている様子が観察されました。また、ミュータンス菌はラクトフェリンが作用して 12 時間経過後から菌数が有意に減少し、抗菌効果を示すことが明らかになりました。

大会参加に関する感想

この度、佐野正之先生が創設して下さった海外の若手小児歯科医を支援する事業「ASUNARO award」の受賞者の発表を中国語に同時翻訳させていただく機会を得ました。この経験を通して現地の多くの小児歯科に携わる先生方と交流することができました。親日と知られる台湾ですが、現地の方は明るく、そしてとても親切でした。

今回、学会に参加させていただくことで、このような貴重な経験をすることが出来ました。支援して下さいました先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



ポスター発表の様子



ASUNARO award 受賞式の様子

海外での学会に初めて参加して

発表内容の説明

当科における近年の歯の外傷に関する臨床統計に加えて、上顎中切歯に着目し外傷時の対応と外傷後3年までの予後との関係を調査した結果を発表しました。今回の調査によって、受傷した上顎中切歯が振盪および亜脱臼と診断された場合、歯冠-歯根破折を伴わなければ、約9割が3年以上生活歯髄を維持できていることが分かりました。歯冠-歯根破折を伴い生活歯髄切断が行われた場合でも、半数以上が歯根部歯髄を維持することができていました。

当科においては、振盪であっても短期間の固定を行うプロトコルとなっており、この点が外傷直後の歯髄への鎮静効果を発揮し良好な予後に貢献している可能性を考察しました。

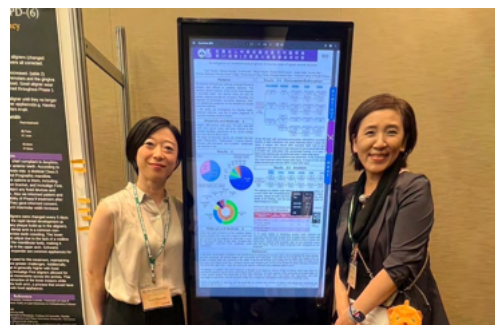
大会参加に関する感想

今回初めて海外の学会に参加し、これまでにない貴重な経験が出来ました。英語での発表は難しく、英語力の重要性を痛感しました。また、様々な先生の発表の方法やデータの示し方もとても勉強になりました。慣れない英語で発表は、緊張して思うようには出来ませんでした。それでも含めて勉強になりましたので、これからの臨床や研究に活かしていきたいと思えます。

初めての台湾渡航で、食べ物を中心とする文化の違いやTAPDの先生方のホスピタリティーに触れ、大好きな国になりました。

今回、台湾小児歯科学会大会に参加するにあたり、岡教授並びに諸大学の先生方、そして小児歯科学会の先生方、お力添えいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

福岡歯科大学小児歯科学講座
中野 佑美



ポスター前で岡教授と



夜市では、たくさんの初めて見るフルーツを楽しみました



初めての学会発表を終えて

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
夏江 華瑠奈

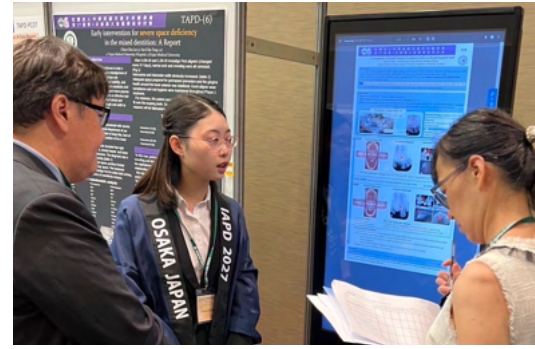
発表内容の説明

今回、乳歯外傷により後継永久歯が形態異常と方向異常を生じた症例について発表を行いました。上顎右側中切歯の精査依頼にて当科を受診した6歳7か月の男児のエックス線画像において、上顎右側中切歯は歯冠が中央部では90度屈曲しており、ほぼ水平方向を向いて埋伏していました。患児は、1歳6か月時に転倒による上顎右側乳中切歯の陥入を経験しているとのことでした。

本症例では、最初に上顎右側乳中切歯を抜歯して、上顎右側中切歯の萌出傾向を観察しました。当科初診から約2年の間に、上顎右側中切歯は歯軸方向を改善しながら歯槽骨ライン付近まで移動し、歯根の正常な成長が認められました。今後も上顎右側中切歯の可及的保存を目指して経過観察を行う方針としています。

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、TAPDに参加する機会をいただきありがとうございました。初めてポスター発表をさせていただく学会となりました。発表では、質問内容に対し伝えたいことを英語で表現することの難しさを経験しました。今後も国際学会に参加する機会を頂けるよう、臨床について理解を深め、英語でのディスカッション能力を磨くよう精進したいと思います。



ポスター発表の様子



観光で訪れた大中至正門の前で

台湾小児歯科学会に参加して

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野
薬師寺 麻里奈

発表内容の説明

齲蝕病原性細菌 *Streptococcus mutans* の表層には、グルコシルトランスフェラーゼ (Glucosyltransferase; GTF) が存在し、GTF はスクロースを分解し、グルカンを合成します。合成されたグルカンは菌の歯面への付着を促し、堆積することでバイオフィルムが形成されます。成熟したバイオフィルムの中では、*S. mutans* がスクロースを分解し、酸を産生することで歯の表面が脱灰され、齲蝕が発生します。含嗽剤であるコンクールF®は *S. mutans* の増殖を抑制することが報告されています。

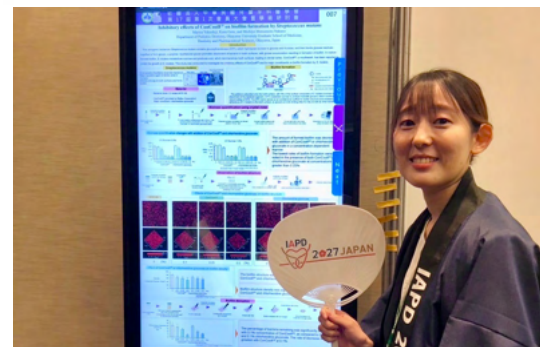
本研究では、コンクールF® とその主要な構成成分を用いて、*S. mutans* によるバイオフィルム形成抑制効果について検討しました。

大会参加に関する感想

初めての国際学会は英語発表だったので不安でしたが海外の先生方の新しい意見を頂き非常に勉強になりました。もう少し英語が喋れたらもっとたくさんの先生とお話できたのにと自分の語学力がないことが残念でした。

また、台湾料理や夜市・龍山寺の観光ができてとても楽しかったです。台湾の方々はとても親切でおみくじの引き方を教えてくださいたりとても素敵な国と感じました。

今後は先生方から頂いた意見や助言を活かしつつ研究を進めていきたいと思いました。



TAPD発表前の様子



台湾の龍山寺